
練馬区在宅療養推進事業
在宅療養シンポジウム 在宅で看取るということ
-アンケート結果-

株式会社メディヴァ

■ 開催日時

平成26年10月18日(土) 午後2時～午後4時

■ 会場

練馬区役所アトリウム地下多目的会議室

■ 講師

講演1 「老いてからの医療・介護との付き合い方、自分らしい最期の迎え方」

医療法人社団プラタナス 桜新町アーバンクリニック 院長 遠矢 純一郎

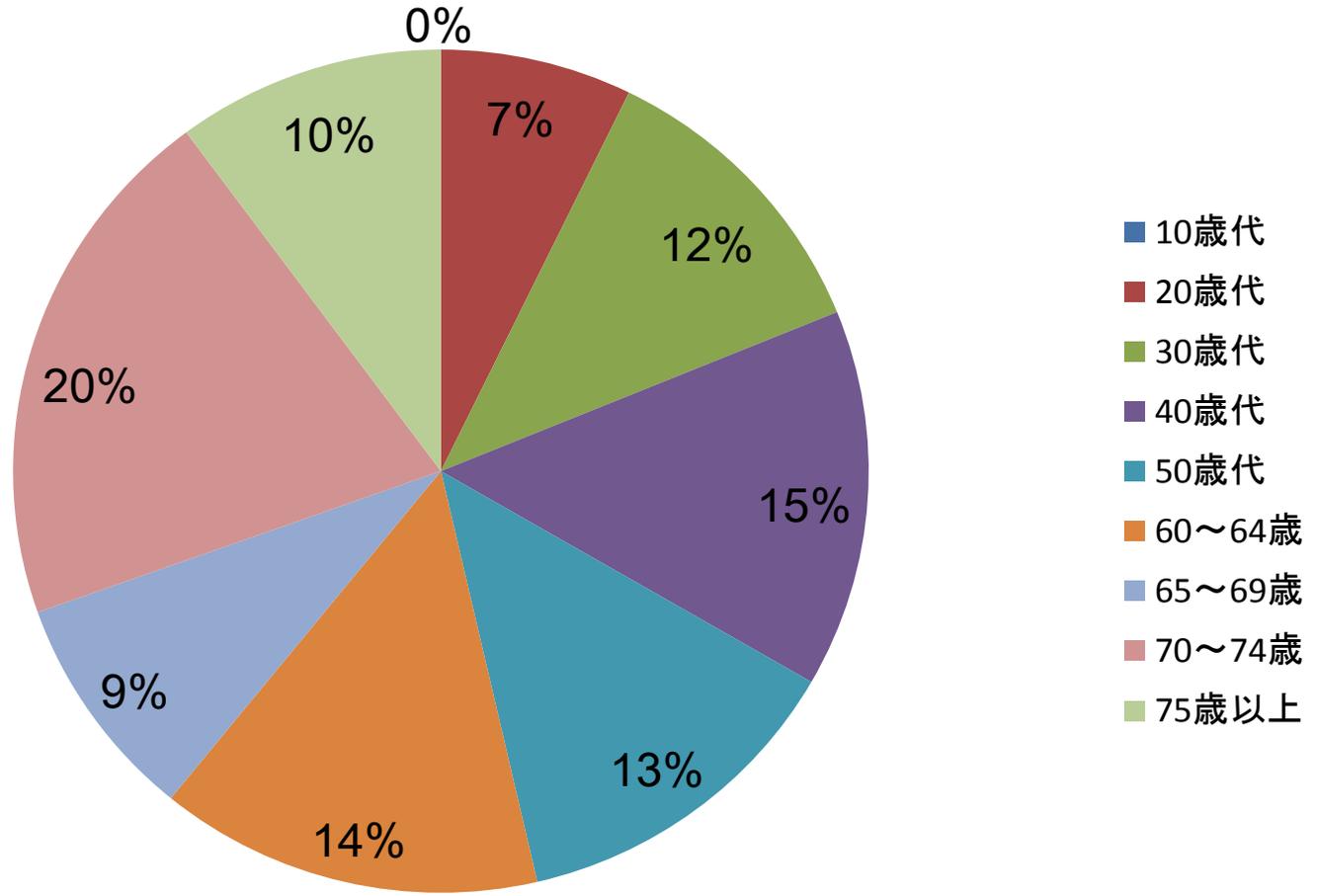
講演2 「孫からの発信、「老いを育てる」という幸福」

一般社団法人患者家族対話推進協会 代表理事 宮崎 詩子

- 参加人数:81名
- アンケート回答者数:71名 (有効回答率:81.6%)
- 参加者背景: 一般市民:38名 (53.5%)
医療介護関係者:33名 (46.5%)

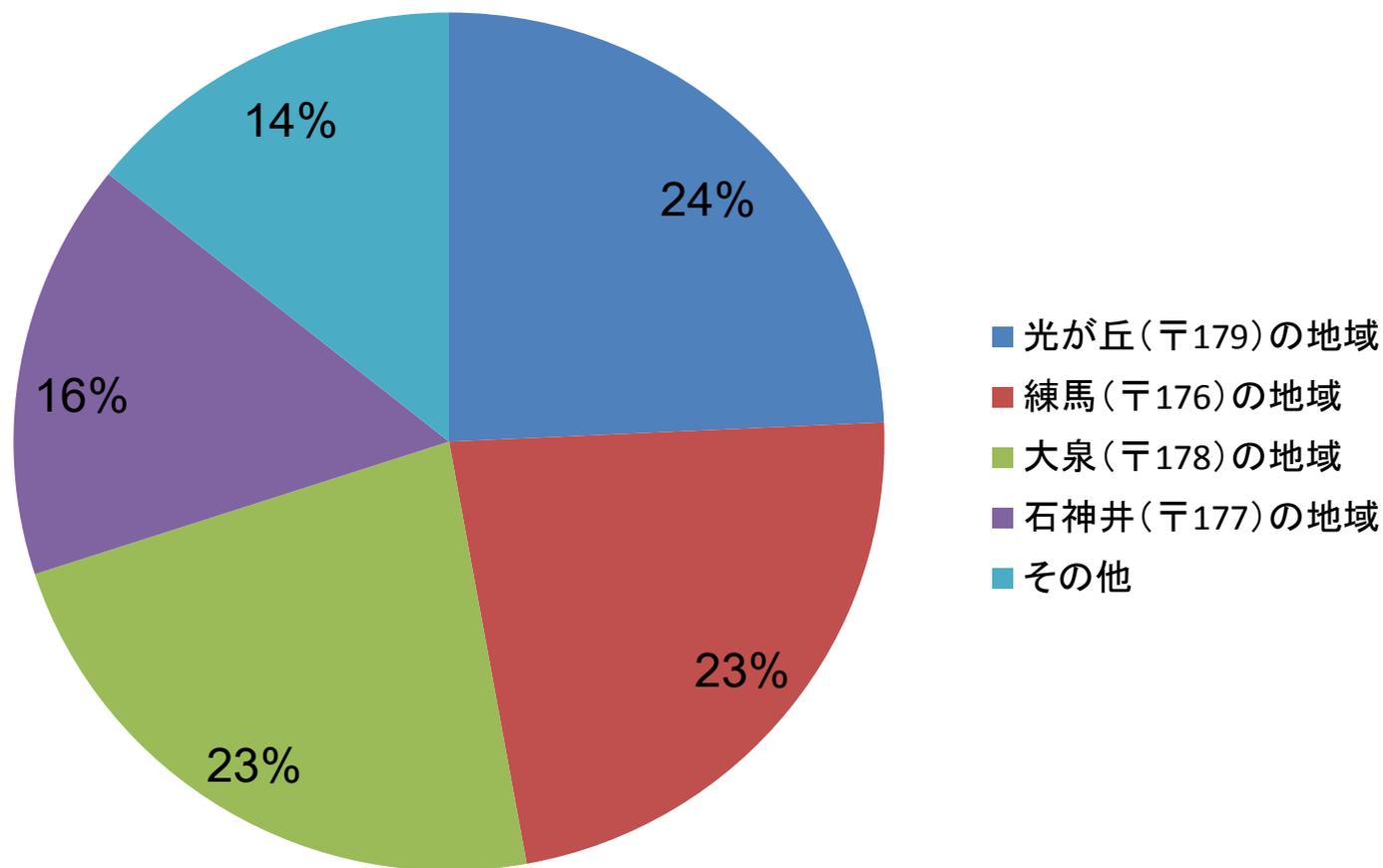
《問1》あなたの年齢をお聞かせください。

- 高齢者の参加比率が約40%、高齢者の子供世代(40歳～64歳)が約40%であった。
- 20歳代から70歳代以上まで、偏りのない参加比率だった。



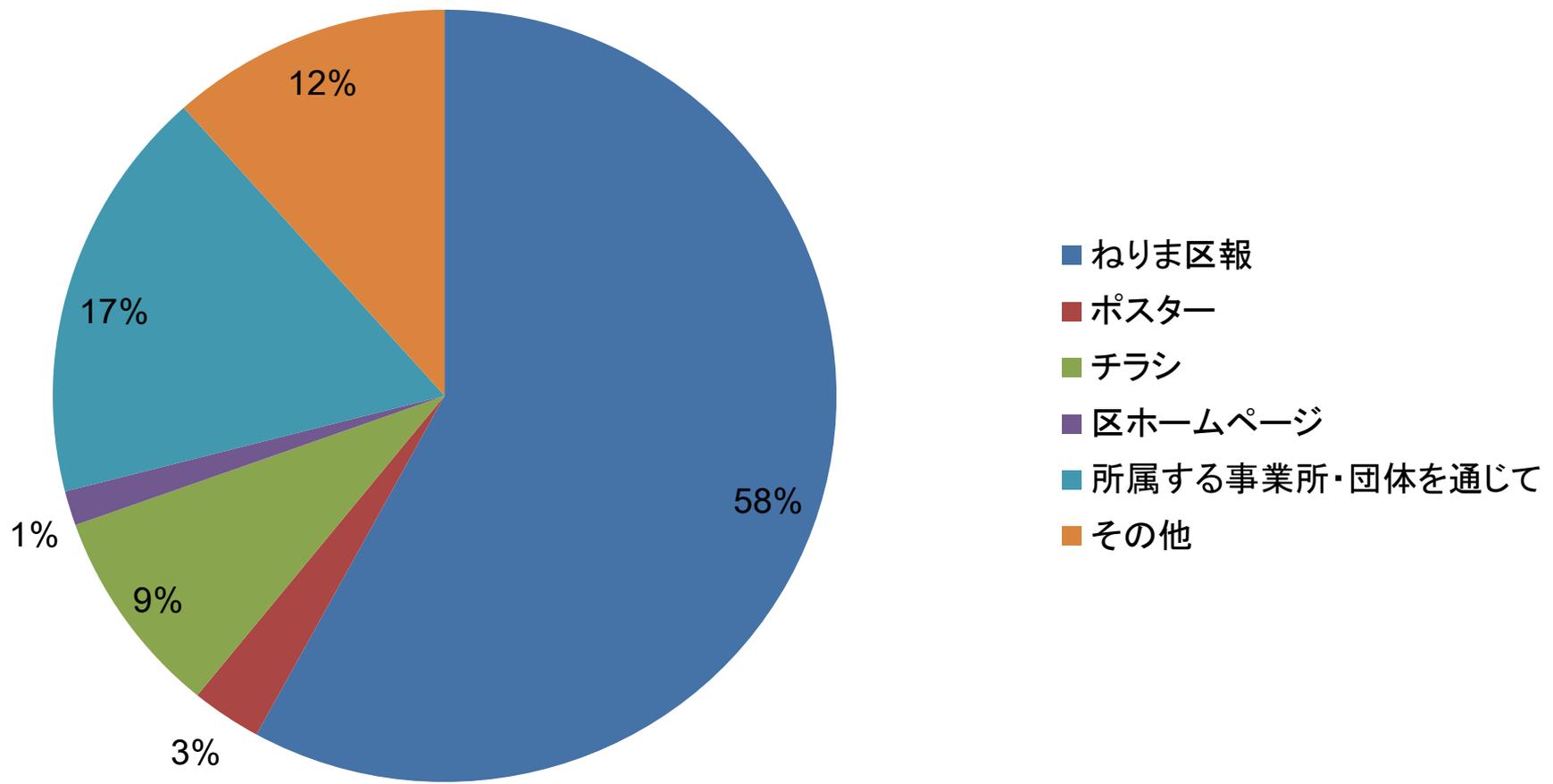
《問2》どちらにお住まいですか？

- 当企画が開催された練馬エリアが最も多いが、遠方の大泉エリアも含め、偏りない参加が得られた。



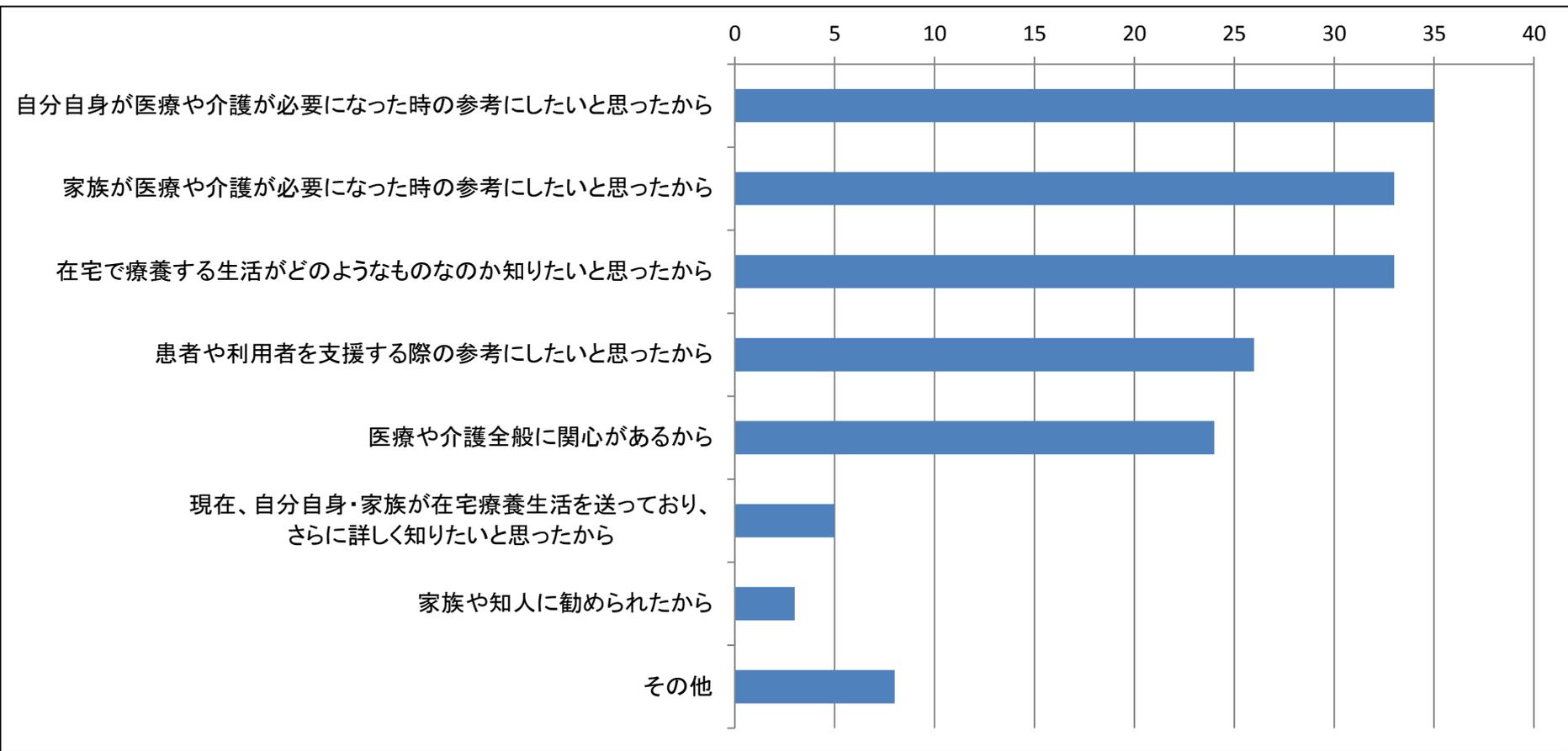
《問3》 本日のシンポジウムは、どこでお知りになりましたか？

■ 約6割の参加者は、ねりま区報による情報を元に参加していた。



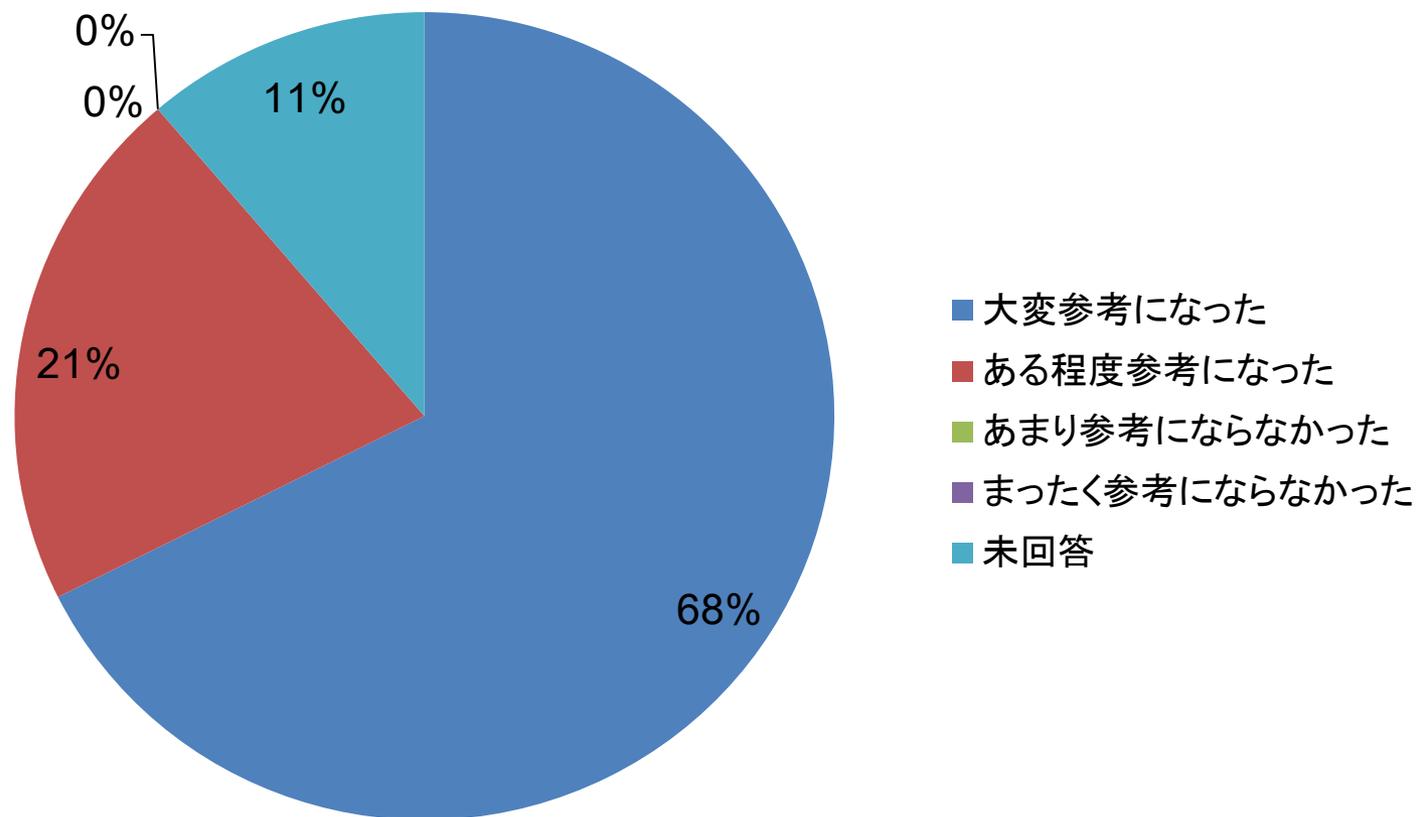
《問4》本日のシンポジウムに参加しようと思った理由をお聞かせください。

- 高齢者やその家族が在宅療養生活を送る事を想定した、当事者としての意識をもった参加が多かった。



《問5》シンポジウムの内容はいかがでしたか？

- 約7割の参加者が大変満足しており、約9割の参加者が満足していた。

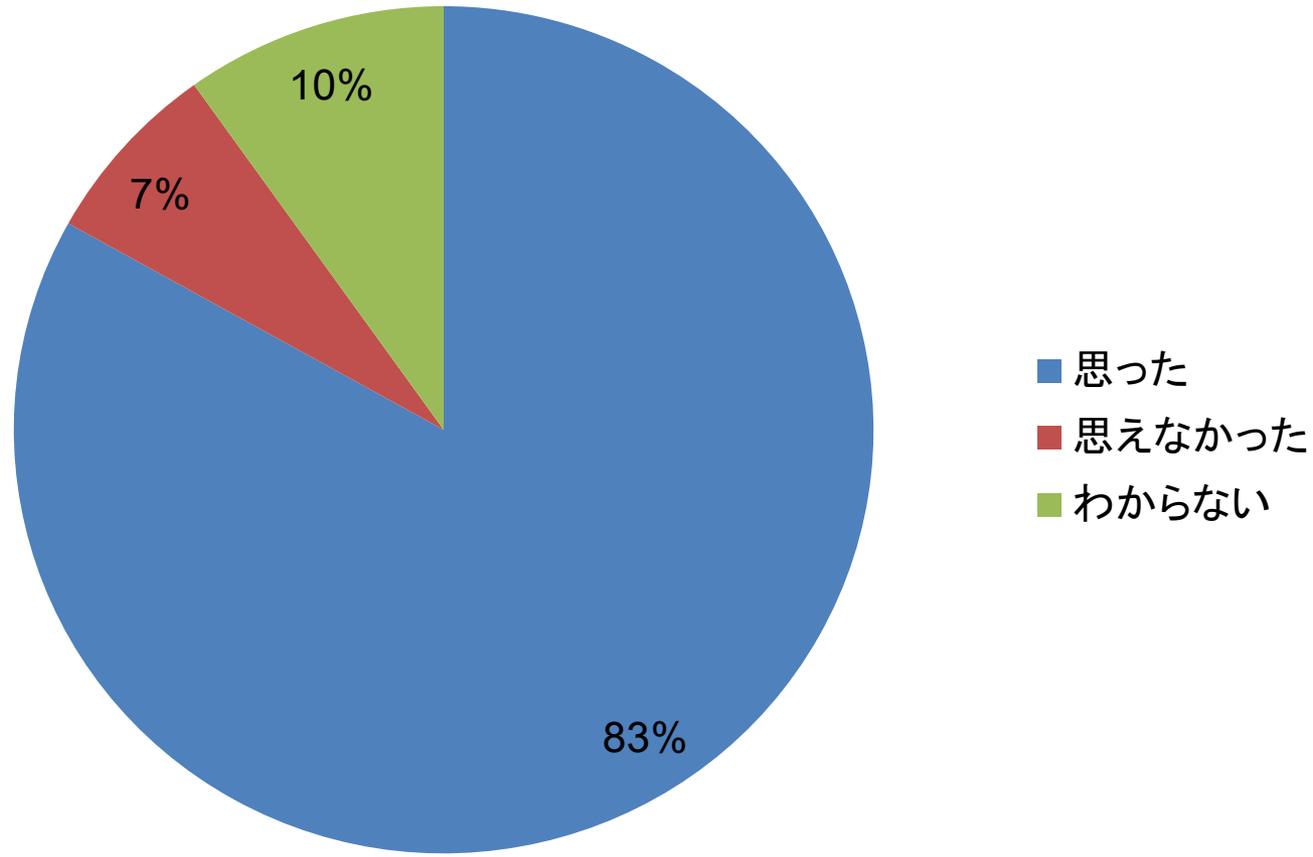


《問6》（問5に関して）参考になった点、または、参考にならなかった点をお聞かせください。

- 具体的な介護の経験の話聞いたことで、在宅の不安が少なくなりました。
- 急いで救急車を呼ぶのではなく、静かに看取ることの大切さを知った。
- 1人を家族皆で支える心構え、家族だけで抱え込まず、介護・医療スタッフと役割分担することなど参考になりましたが、家族が少ない場合、両方の両親、同時介護になった場合は、ゆったり接することは出来ないだろうな、と思いました。
- 在宅医療のMerit/Demeritが見えてきた。
- 2人の講師の話を通して、本人の望むこと、どう生きたいかを理解し、可能な限り実現していくことが、在宅で生きること、支えることだと改めて認識したから。
- 在宅医療をしてくれる病院や診療所が少ない（というよりほとんどない）というのが現状（私の住んでいる地域）。行政が在宅医療にどう予算をかけて、どのように進めていくべきなのか、という内容など。
- 医師、介護士、ケアマネジャー等の連携等→経験の現状
- 患者が本当は何をしてもらいたいのかを意識すること
- 肩を張らずに介護すること。
- 在宅医療はひとりで考え込まないことと知った。
- 在宅医療を始めるタイミングは退院時などということを知った。
- 在宅で看取る最高のケアとは、あたえるものではなく寄り添うものだと参考になった。

《問7》 今回のシンポジウムに参加して、医療や介護が必要になった時、一つの選択肢として在宅療養を考えることができましたか。

- 83%の参加者が、本企画を通して、在宅療養を将来の選択肢として考えるきっかけとして捉えていた。



《問8》 今後、在宅医療や介護に関してどのようなテーマの講演・シンポジウムを希望されますか？

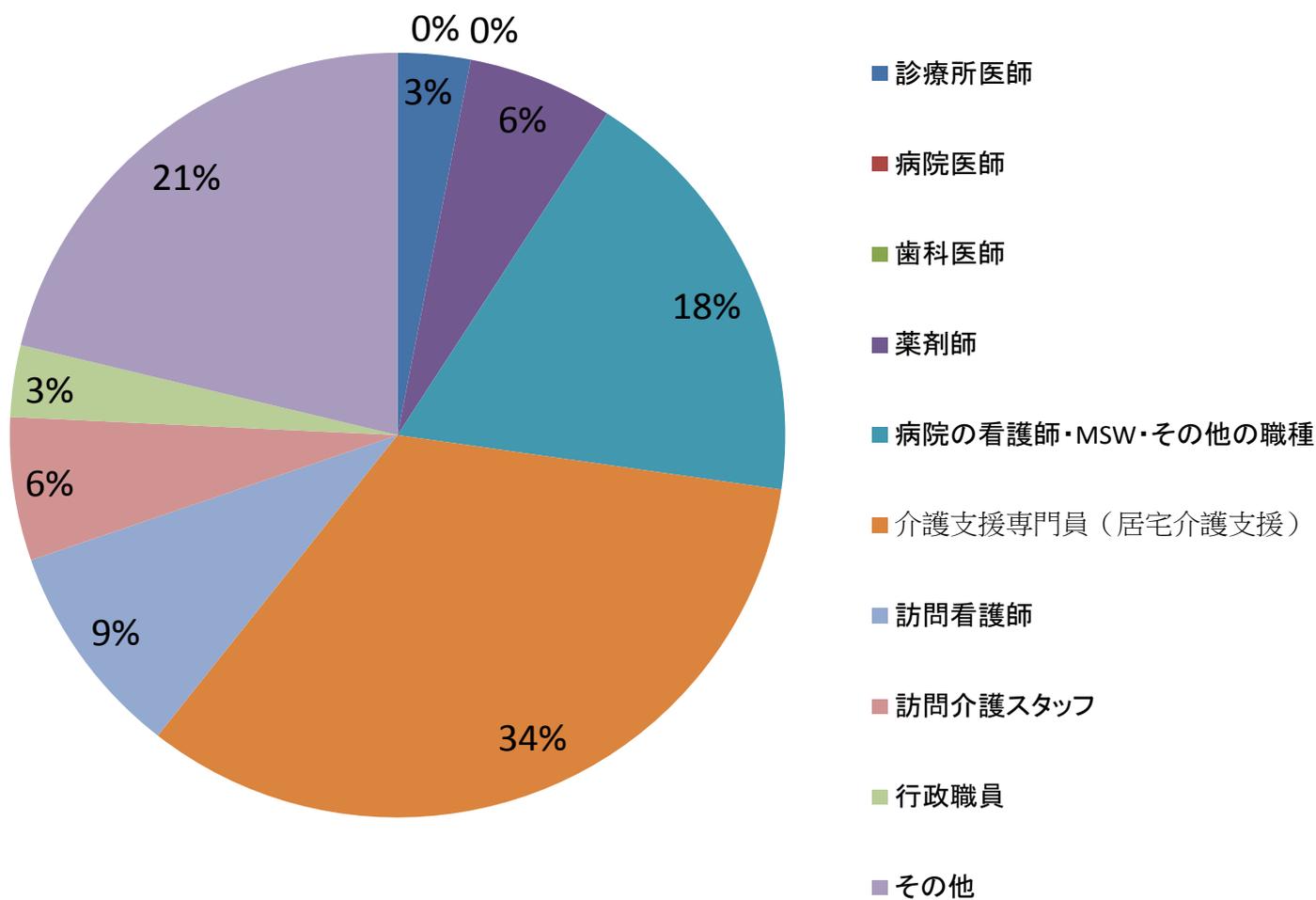
- また参加したい。参考にしたい。
- 実例を出して話してほしい。
- どのようなスタッフが、どのような頻度でどのように関わっていくのか具体的な例をあげた講演会を希望します。
- がんに焦点をあてたもの
- 独居・高齢世帯で在宅が本当に可能なのか？に答える内容(具体例を交えて)。
- 往診と在宅医療の違いを知らなかった。現在、93歳の父親と同居。本人はほぼ自立しているが、最近今まで出来ていたことが急にできなくなったり、やらなくなったりしてとても不安です。今後、情報を正しく得るようにしていきたい。
- 在宅看取りのケースだけでなく、在宅療養中のケアを受けている最中の家の方の意見など知りたい。
- 第2部のような介護を行った人の講演

《問9》 今回のシンポジウムや在宅療養に関して、ご意見あればご自由にご記入ください。

- マッサージ・鍼の方たちを在宅療養に加えてほしい。
- 練馬区の具体的な在宅療法について教えてください。
- 地区の「在宅医の一覧表」など一般の在宅医療に関する情報公開を考えて頂きたい。
- 在宅療養相談窓口、高齢者相談センターのご案内があると良かった。
- 将来的には、地域の拠点(身近な場所)で啓発事業ができるようになるとういと思います。
- 今回、医師の側からと看取りをした家族の方のお話でした。今後、介護の側、行政の側からのお話も伺いたい。
- 実際、練馬の先生方やケアマネジャーさんなどの講演を聞きたいです。
- カタカナはあまり使わないで・・・カンファレンス、エンゼルケアetc.
- 要は自分の気持ちをしっかり持つことで有り、この様な機会は重要であると思いました。
ありがとうございました。

《問10》 医療・介護関係者の方にお聞きします。職種・業種は何ですか？

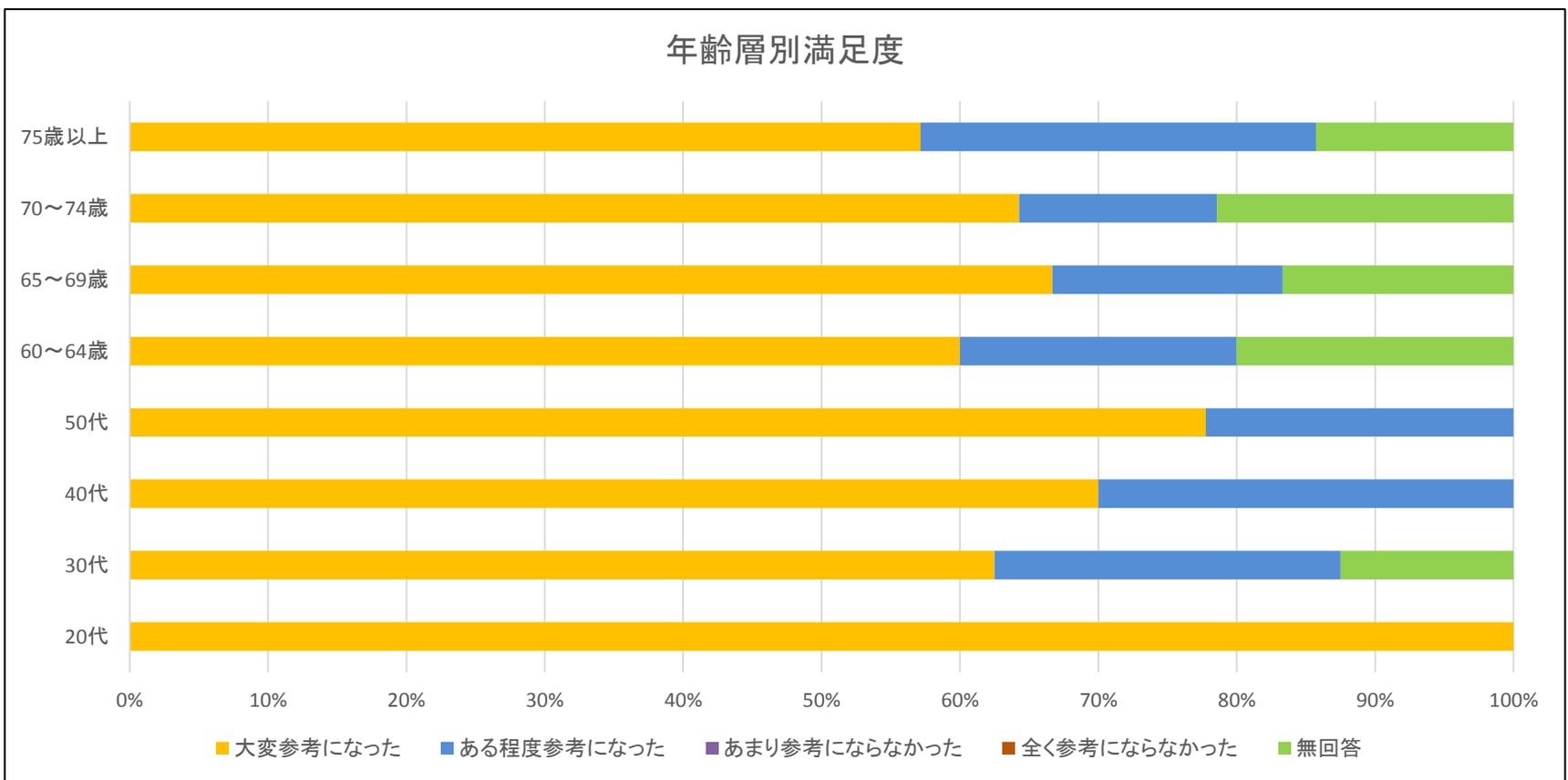
■ 病院関係者(看護師・MSW・その他)やケアマネジャーで、医療介護関係者全体の半数を占めており、それに対して、医師・薬剤師・訪問看護師・介護員は少なかった。



【分析】年齢層別満足度

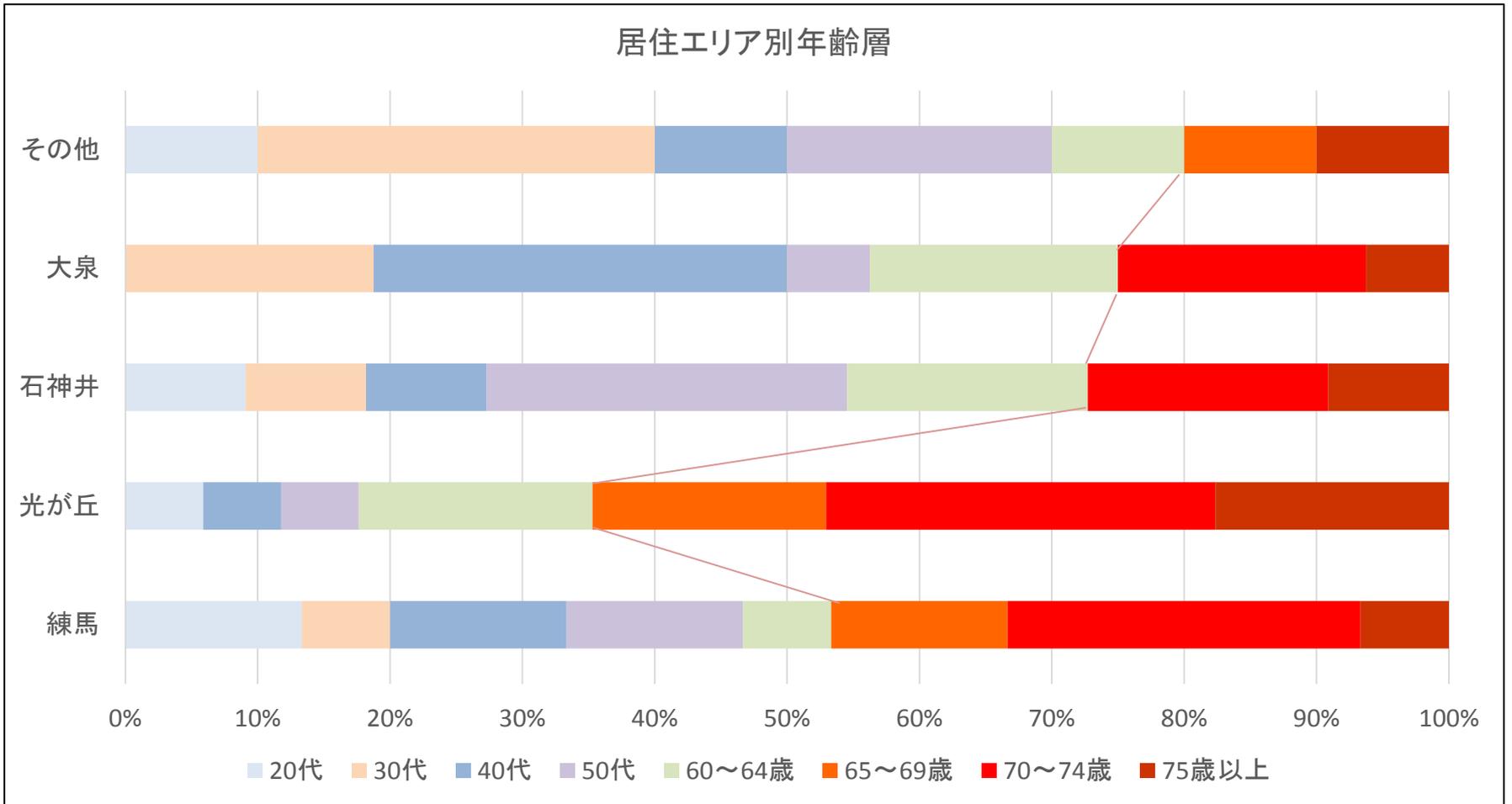
■ 各年齢層毎の満足度の結果として、年齢が経るごとに満足度が低下する傾向が認められた。これは、【問6・8・9】を踏まえると、当事者意識が強まるに従いより具体的な講義内容を求めているものと推測される。

年齢層別満足度



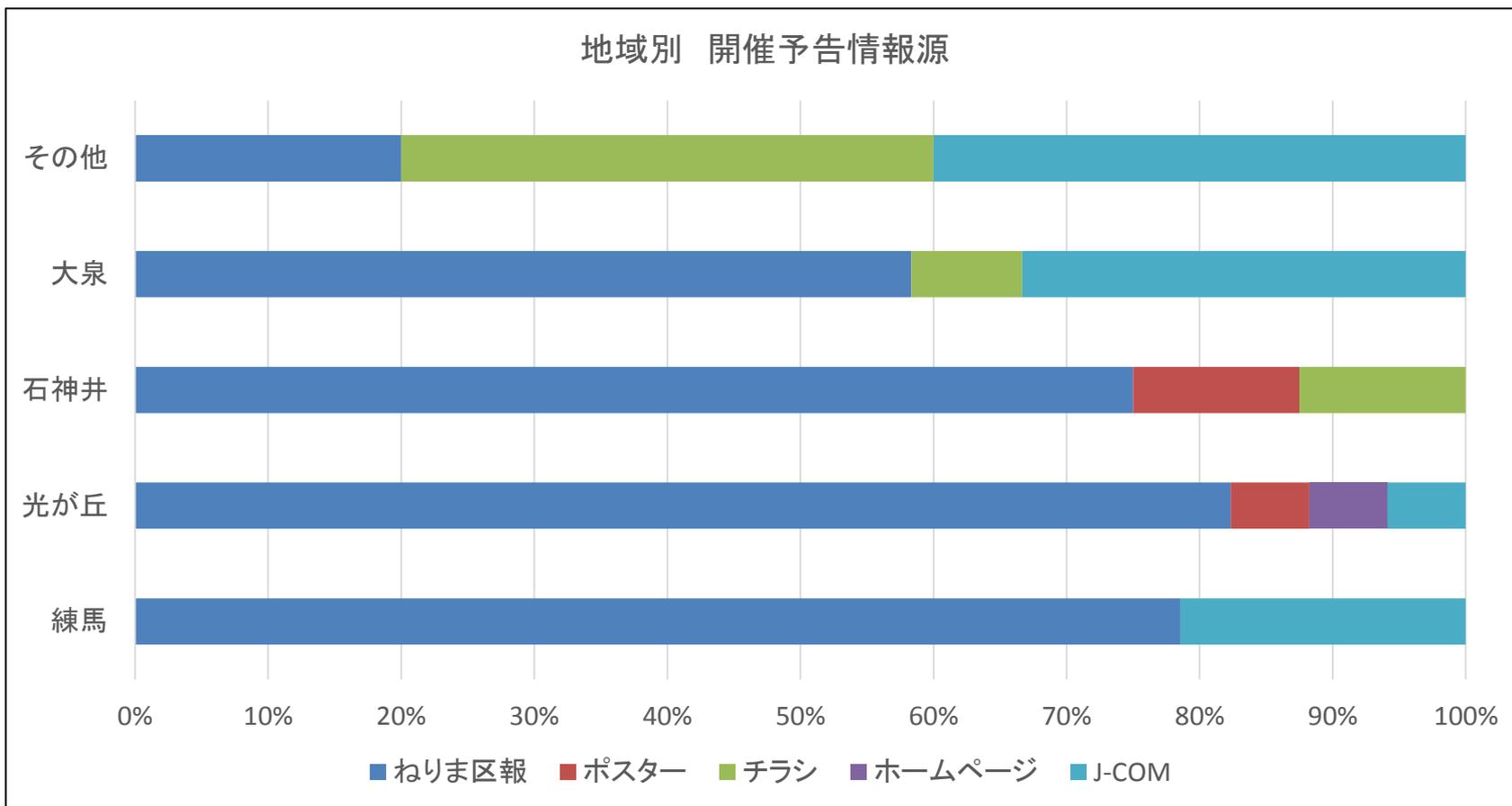
【分析】居住エリア別年齢層

- 練馬・光が丘における高齢者参加比率が高く、石神井・大泉との差を認めた。
 ※会場からの距離が遠くなる程、高齢者が参加しづらい可能性あり。



【分析】地域別 シンポジウム開催に関する情報源

- 参加者の住まいエリア毎における、シンポジウム開催に関する情報源は、その多くがねりま区報を元にしたものであった。ただし、大泉エリアのみが他エリアと比較して区報によるものが少ない。



※一般参加者に関する情報を抽出するため、全参加者のうち医療関係者からの回答は除いた。

- 年齢層に偏りは無い。
- 参加者全体を見たときに居住エリアに偏りはないが、高齢者(65歳以上)に限定して見ると練馬・光が丘における高齢者参加比率が高く、石神井・大泉との差を認めた。
※ 会場からの距離が遠くなる程、高齢者が参加しづらい可能性がある。
- 全体満足度として、9割の方が満足を得ている。
- ただし、高齢になるに従い、満足度が低下した。
※ 自由記載の内容から推察するに、高齢であればあるほど、より具体的で現実味のある講義内容を求めている可能性がある。
- 8割以上の方が、シンポジウムをきっかけとして、在宅療養生活を、将来の選択肢として捉えている。